

方剂名	効能	生薬組成
書籍	主治および証	病機 方意

表裏双解剂 解表攻裏剂 2

ぼうふうつうしょうさん  
防風通聖散

疏風解表・瀉熱通便

防風・荊芥・連翹・麻黄・薄荷・川芎・当帰・白芍・白朮・山梔子・大黄・芒硝各 1.5g・石膏・黄芩・桔梗各 3g・甘草 6g・滑石 9g  
粉末 1回 6g を生姜 2g と水煎し温服する。生姜 2g と水煎し服用してもよい。

宣明論

<主治>

風熱壅盛、表裏俱実

悪寒、発熱、目の充血、鼻閉、口が苦い、口乾、咽痛、胸苦しい、咳嗽、粘稠な痰、尿が濃く少量、便秘、舌質が紅、舌苔が黄厚、脈が浮滑で数などを呈す。

<病機>

陽盛内熱のものが、風邪を感受し、表実のために内熱が鬱した表裏俱実である。

風邪襲表により悪寒、発熱し、風熱が上攻して目の充血、鼻閉をきたし、内熱により口が苦い、口乾、尿が濃い、便秘などが生じ、風熱犯肺により咽痛、胸苦しい、粘稠な痰、咳嗽がみられる。舌質が紅、舌苔が黄厚、脈が滑数は裏熱を、脈が浮は表証を表わす。

<方意>

本方（防風通聖散）は疏風解表、清熱、攻下の効能をもつが、清熱が主体で、解表は補助的であり、攻下は清熱を強める目的である。

疏風解表の防風・荊芥・麻黄・薄荷は風邪を汗として除く。瀉下の大黃・芒硝は熱邪を通便によって泄下し、清熱の石膏・黄芩・連翹・桔梗は肺胃の熱を宣泄し、清熱利湿の山梔子・滑石は熱邪を小便として排除し、いずれも裏熱を清解する。さらに、養血活血の当帰・白芍・川芎、健脾燥湿の白朮と和中緩急の甘草が配合されているので、正気を維護することができ、「汗して表を傷らず、清下して裏を傷らず」と言われる。

<参考>

本方（防風通聖散）は祛風清熱の効能をもつので、風熱壅盛で生じる皮膚化膿症、じんま疹、痔核などにも有効である。

加減法

悪寒がなければ、麻黄を除く。

高熱、口渇がなければ、石膏を去る。

便秘がみられないときは、大黄・芒硝を除く。

日本での保険適応効能、効果

腹部に皮下脂肪が多く、便秘がちなものの次の諸症；高血圧の随伴症状（動悸、肩こり、のぼせ）、肥満症、むくみ、便秘